

家畜ビート単胚種《M. B》の特性

☆ ☆ ☆

札幌研究農場 山下 太郎

- 家畜ビートの多労性が改善され、しかも高収穫が可能です。●
- 間引なしの直まきでは作業時間は従来の半分に短縮でき、省●
- 力化につながる。紙筒移植栽培ではシュガーマンゴールドに●
- 比し3割増収が期待できる。……………●



単胚品種の掘り出し風景、
乾物率が高く、貯蔵性も良好です

1 単胚種《M. B》の特性

1) 単胚種子の特性

従来から栽培されている品種は、一つの種子(果実)から2~5本の芽が出る、いわゆる多胚種子である。この場合の間引作業は大変つらいものであった。新しく育成された家畜ビート単胚種子(遺伝的単胚種子)は、一つの種子(果粒)から1本しか芽が出ない。したがって直播時に種子をやや厚まきしても、その間引労力は従来の多胚種と比較して、長柄のホーを使って、

立ったままの姿勢でできるのでずいぶん楽になった。紙筒移植栽培の場合、育苗時の間引は全く必要なく、当然移植栽培にも適しており、移植栽培による増収効果も高い(第2表)

2) 単胚種子《M. B》の生育特性

- 根色は地上部が緑、地下部が白で、葉の病害(褐班病)に強い。
- 根形はシュガーマンゴールド(長紡錘型)に比し、紡錘型で地上露出部が多く抜き取りやすい。
- 根形の整一性は良好で、冬期貯蔵性もすぐれている。

3) 単胚種《M. B》の収量特性

単胚種の収量は第1表、第2表のとおりで、葉部収量にすぐれ、生根部収量はシュガーマンゴールドと大体同様、乾物率高く乾物収量がすぐれている。

2 単胚種《M. B》の栽培上の留意点

(育苗までが特に注意を要し、以後は多胚種と同じ)

単胚種は多胚種と比較して、種子が小粒で、発芽率・発芽勢がやや劣るので、

- 1) 移植栽培では(播種量 80 g ペーパーポット 5 冊・7,000 本/10 a)

- 播種後の覆土の厚さは4~5 mm とし、細かい土を用い、均一にかけること。(写真1)
- 早く整一に発芽させるため、最初はタツプ(2~3回に分けて)水をかけ、下まで滲透するように。温度は高めに(25~30℃)、水分保持と温度上昇をはかるために発芽揃時まで、ビニールまたはポリで直接被覆するとよい。

2) 直播栽培では (播種量 100~120 g/10 a)

- 条件の良い時の圃場発芽率は70~80%で、圃場条件を加味し、2粒播きを30~50%の割合で許容した方が本数確保の上で安全。

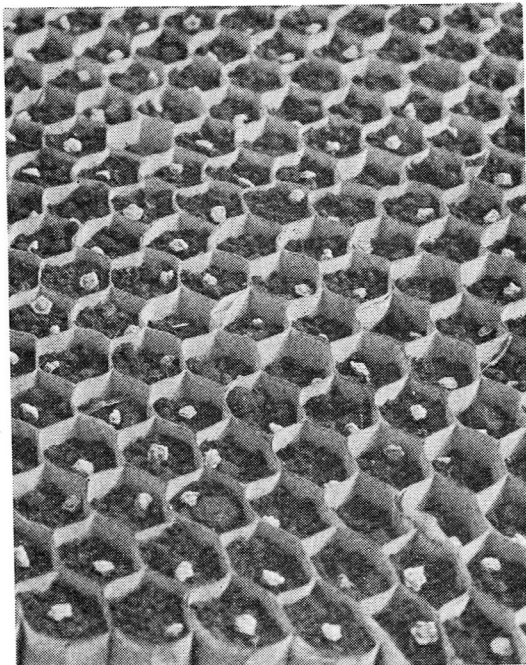


写真1 ペーパーポットに播かれた単胚種子。覆土深が4~5 mm, あらかじめ土を均一につめることが大切。

第1表 移植栽培による品種比較成績 <kg/10 a>
(昭48~49年平均 札幌研究農場, 安部)

品 種	生 収 量			根部乾物率	乾 物 収 量	
	葉 部	根 部	同左比率		根 部	同左比率
シュガーマンゴールド	6,110	15,653	100%	12.52%	1,951	100%
M. G. M.	7,176	11,608	79	16.75	2,060	106
単 胚 種 <M. B>	8,242	14,681	102	16.41	2,566	131

第2表 移植及び直播による品種比較成績
(昭50年* 札幌研究農場, 五十嵐)**

区 別	品 種	生 収 量			根部乾物率	乾 物 収 量	
		葉 部	根 部	同左比率		根 部	同左比率
移 植 区	シュガーマンゴールド	3,724	11,822	100%	8.67%	1,025	100%
	M. G. M.	4,584	8,740	74	10.07	880	86
	単 胚 種 <M. B>	4,229	11,819	100	11.44	1,352	132
直 播 区	シュガーマンゴールド	3,584	9,314	100	(79)	—	—
	M. G. M.	4,212	6,546	70	(75)	—	—
	単 胚 種 <M. B>	4,212	8,505	91	(72)	—	—

註> * 昭和50年の気象推移は家畜ビートの生育にとって不良年といえる。
** 生根部収量の移植区対比(単胚種の移植増収効果が高い。)